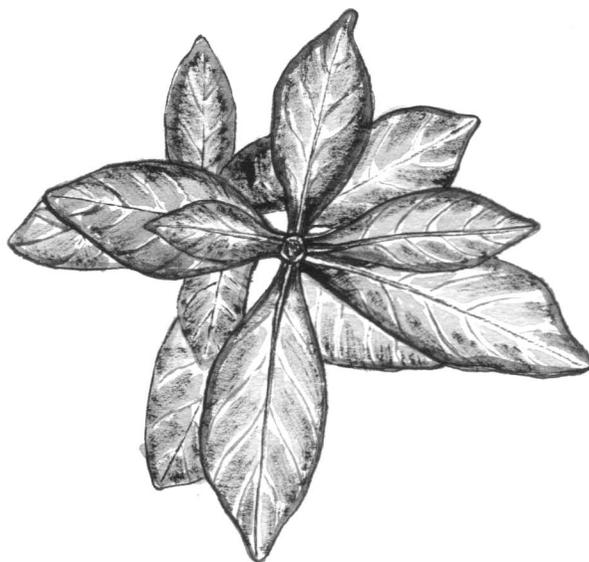


水トラストニュース

2018.12 No.39



もくじ

ボランティア活動と私1
切られたヒノキの枝の活用について4
海外の雑誌で「今時なんて珍しいことをする国なんだ」と書かれた路面電車・・・	5
2017年度 収支決算報告6

ボランティア活動と私

三宅 徹

1. きっかけ

私の最近の生活は、平日、会社で働き、週末は山奥に出向き間伐手遅れ林の間伐ボランティアするのが1週間のサイクルとなっています。

多くの人にとっての山林イメージはキャンプや登山のような行楽のために入り、豊かな自然を満喫し心を癒すところでしょうが、私たちが入る山は下草がまったくなく、やせ細ったスギやヒノキが密集する針葉樹の人口林です。もちろん登山道はなく、20キロちかい荷物をもって足場の悪い急斜面を上り、汗だくになりながらチェーンソーで木を切っています。

これだけ聞くと、なぜ、大切な終末をそこまでして間伐ボランティアに費やすのか疑問に思われる方がほとんどだと思いますが、当事者である私は、苦痛と思ったことはなく、この活動をこころから楽しんでいます。

ただ、こんな私もほんの数年前まではボランティア活動とは程遠い生活をしていて、こんな事になるとはまったく思ってもいませんでした。

私の生活を変えたきっかけは自身に発症した花粉症が始まりでした。

2. 出会い

それは、東日本大震災が発生してしばらく経ってからのからのことです。多くの若い方が東北地方各地でボランティア活動されているのをテレビで見ていた私は、30歳を過ぎた中年の私がか社のことだけで精一杯になっている自分を恥ずかしく感じていました。

同時に丁度そのころ、私は絶対にかかりたくないと思っていた花粉症の症状が出始めて、民間療法等の治療法を探していたところでした。

ただ、いつも他と人と少し考えるポイントが違う私は、「花粉症はスギの花粉が原因なんだから、その原因を取り除けばいいんだ。」と思いつき、山のスギを切り倒す手段を見つけるべく、今の日本の山の実態をインターネットで調べはじめました。

インターネットに出てきた情報は、予想を超える日本の山の実態を私に教えてくれました。山主さんが山持ちであることを自慢出来たのは昔の話で、材価が下がったスギやヒノキの山を持て余し放置していることや、放置されたスギやヒノキの密集林が治水能力を低下させていること、実際に豊田市等は東海豪富で洪水の被害にあいかけたこと等、いままで知らなかったことをインターネットが教えてくれました。

そんななかで、私は、間伐ボランティアという活動をしているホームページを見つけ、「これだ！」と思い参加していくことになりました。

3. とよた森林学校と矢森協への出会い

初めに参加した間伐ボランティアは、とよた森林学校主催の初級間伐ボランティア講座卒業生によって構成される矢森協(矢作川水系森林ボランティア協議会)の間伐グループでした。

私は、間伐ボランティア講座の参加や間伐グループでの活動を開始するまで、間伐ボランティアに参加している人は自然を守ることに高い使命感を持った人たちの集まりと思っていました。ところが、実際に参加してみると、ほとんどの方が、元伐木作業員であったり、登山や森林観察を趣味にしている人で、趣味や生活の延長線上で楽しみながら活動をされていることを知り、新鮮な驚きを感じました。

さらに、実際に間伐ボランティア活動を続けていると、ただ木を切る技術だけでは活動が出来ないことがわかってきました。例えば、自然植生への知識が必要だったり、ロープワークの知識が必要だったり、力学の知識も多用する必要があるのです。もちろん、安全のため、必ずチームで活動する必要があり、協調性が求められます。

活動を続けていくうちに、間伐ボランティアは、各チーム員がそれぞれの心技体(自然を守る心、道具を操る技、春夏秋冬活動を続ける体力)を高めあって実現するチーム活動なのだと知りました。

さらに活動を続けていると、現在の森林行政の現状も情報として入ってくるようになり、私にとって間伐ボランティアは、単なる花粉症対策のための活動から、国の森林政策を憂い、個人としてどのように自然保護や人工林問題に取り組んでいくか、社会貢献を考える場になっていきました。



間伐前



間伐後

4. 木曾川水トラストへの参加

しばらくは、矢森協での活動が中心だった私も、自宅近くの地域に同じような活動をしているチームを探すようになり、その中でみつけたのが木曾川水トラストの皆さんでした。

木曾川水トラストが発足した経緯を聞いたときは、町長さんが大怪我を負うような地域で活動に参加し続けても大丈夫なのかと怖くなりましたが、一方で、都市に住む人の生活が、どれだけ川の上流の山林や水資源を搾取することで生活を成り立たせているのかも知り共感することが出来ました。

矢森協での活動では、豊田市という同じ行政単位で都市と山林の関係を考えればよく、同じ市民間の問題なので、活動の輪が広がりやすいし、行政の支援も得やすいものでした。

しかし、木曾川水トラストの見ている地域は、岐阜県の片田舎である御嵩町から愛知県の名古屋等の大都市の人たちに訴えかけるものなので、管轄する行政区も異なることで支援も得られにくく、とても難しい活動なのだと思っています。

ちなみに、私が木曾川水トラストの活動の中で一番楽しみなのは、お昼のフリートークの時間です。参加者が森林や趣味、行政のことまでいろいろな話をしてくれるので、つつい聞き入ってしまいます。ボランティアという活動がみんなの気持ちをオープンにしているので会話がはずむのだと思っています。

5. これからの活動

私にとって、今年は間伐ボランティアに参加し始めてから5年目になります。楽しいと思えた活動だからこそ続けることが出来たのだと感じています。また、間伐ボランティアを通じて、たくさんの方と出会い話し合うことで自分自身の人間的な厚みが増した気がしますし、自然に対する知識やロープワーク等の技術も身に付けることが出来ました。会社一筋で生活していた5年間だったら得られなかった貴重な経験や知識が自分自身に身についたと思うと、間伐ボランティアに参加して本当に良かったと思っています。

これからも間伐ボランティアは続けていく予定ですが、植物観察、ツリークライミング、山村交流事業等への参加にも活動の幅を広げて、より高いレベルで社会に貢献できる活動をしていこうと思っています。





切られたヒノキの枝の活用について

土橋 文明

森林作業で、間伐されて枝払いされた枝や、枝打ちで切られた枝は、自然に還るべく森に放置されたままだった。

しかし、枝によってはヒノキの香りがやや強いものもあり、放置するには惜しいと常々思っていた。

ヒノキの切り株は香りが強く、2センチメートルくらいの厚さに切り、太い径のものは芳香剤やヒノキ風呂もどき、鍋敷き等に、また、細い径のものはその半分の厚さでコースターなどにすべく、以前から、参加者にお土産としてわけていた。

そこで、枝分かれている部分を切り取り、皮を取ってみると、写真のようにオブジェとして活用できるのではないかと思い、作業の合間を見ていくつか作成した。二股になっているほうの切り口が同一平面でないと立たないので、切り落とす時に注意を要した。サイズは、長さが3センチメートルから10センチメートル程度、太さが1センチメートルから5センチメートル程度である。

一昨年から、「環境デーなごや」のイベントで希望者に配布したところ、思いがけず好評であった。

用途については、こちらからは何も言わなかったのであるが、箸置きとか、ペンダント、置物にしたと言われた。

捨てられた枝のほんの一部ではあるが、活用できたことは意義深いと思われる。



海外の雑誌で「今時なんて珍しいことをする国なんだ」と書かれた路面電車

小西 和子

水トラストの山仕事に参加する人も利用している名鉄広見線、以前は終点御嵩駅から名古屋、更にその先へと直通で1時間に2本はあったものである。名古屋へはそこそこの気軽さで名鉄を使えたものである。御嵩からなら座って行けた。文庫の1冊も読めたし、セーターだって工夫次第で編めた。しかし今や新可児駅で改札があり新可児起点で名古屋行きが出る。不便である。これ以上に不便なのが岐阜市及びその先の大垣等へ行きたい時である。ま、ちょっとした小旅行のつもりでいけば楽しいのではあるが…。問題は、岐阜の街を移動するのが超めんどくせーのである。以前は市内を走る市電に乗れば、ほぼまにあった。この便利でわかり易い市電を廃止するというニュースがあったのは、富山市がおしゃれな市電を導入し、評判になっていた時と同じ頃だったように記憶している。時代遅れのことをするのか!! 何とか市電を残してほしいと切望したものであるが、それ以降岐阜市は遠い場所になってしまった。その事を思い出させてくれたのが、「しなやかな日本列島のつくりかた」藻谷浩介対話集 新潮文庫 第1部 町の未来はどこにあるか の第2章「赤字鉄道」はなぜ廃止してはいけないか 宇都宮浄人(経済学者)である。宇都宮氏によると、世界中が急速に車社会化し、鉄道斜陽論が出てきてからも、日本は先進国で唯一、鉄道路線の拡張を進め、技術革新を続けてきた。安全で時間通りに走る日本の鉄道は、世界の鉄道業界を牽引する存在であった。しかしこれは過去の話で、今や地方鉄道廃止の流れが加速して、とここで岐阜の路面電車(名鉄岐阜市内線・美濃町線)に話が向かいます。藻谷氏はそれに関して、市内線廃止のあとの街地の賑わいが目に見えてガタガタと落ちていったといいます。美濃町線を廃止した後は、商店街のお客は3割ぐらい減ったと…。なる程、柳ヶ瀬が廃れた一因はこれか、とヒザ打ちです。藻谷氏は続けて、そのころ市当局は、JR 駅周辺の高層ビルの再開発に、100 億円単位のお金をかけていたといいます。そのわずか数十分の一の費用で維持できる路線を廃止しておきながら、とこの高層ビルは選挙の時、佐藤なにがしという女子と聖子が選挙の演説で、各々、さも自分の成果のように言い合っていたなあ。

というわけで詳しく知りたい方は「しなやかな…」を読んでくれたまえ。不便をおして水トラストのボランティアに参加の皆様、ほんとうにありがとうねー。お疲れ様です。



栽培したシイタケ
軍手より大きい

2017年度 収支決算報告

2017年4月1日から2018年3月31日まで

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
(資金収支の部)				
I 経常収入の部				
1 会費収入	98,000	100,000	△ 2,000	
1) 正会員会費収入	40,000	40,000	0	正会員年会費 2000円×20名
2) 支持会員会費収入	58,000	60,000	△ 2,000	支持会員年会費 2000円×30名
2 事業収入	100,000	150,909	△ 50,909	環境大学講座参加費と助成金、大王製紙売り上げ
3 補助金等収入	0	0	0	
1) 民間補助金収入	0	0	0	
4 寄付金収入	200,000	213,500	△ 13,500	
1) 寄付金収入	200,000	213,500	△ 13,500	個人有志より
5 借入金収入	0	0	0	
1) 借入金収入	0	0	0	
6 雑収入	55,100	25,805	29,295	
1) 雑収入	5,000	3,600	1,400	新年会の会費残など
2) 保険料	50,000	22,200	27,800	ボランティア保険参加者負担分
3) 受け取り利息	100	5	95	預金利息
経常収入合計	453,100	490,214	△ 37,114	
II 経常支出の部				
1 事業費	430,000	315,011	114,989	
1) 水源林の保護育成事業	230,000	223,055	6,945	水源の森みたく森林管理、ボランティア保険、車検
2) 水源地域環境保全のための政策提言事業	100,000	42,076	57,924	御嵩町有林管理(キャタピラ車購入)、ガソリン代他
3) 環境保全啓発事業	100,000	49,880	50,120	水トラストニュース印刷製本発送費
2 管理費	165,000	144,685	20,315	
1) 役員報酬	0	0	0	
2) 給料手当	0	0	0	
3) 臨時雇賃金	0	0	0	
4) 福利厚生費	0	0	0	
5) 会議費	12,000	12,000	0	理事会1回 総会1回 役員会12回
6) 旅費交通費	0	0	0	
7) 通信運搬費	10,000	1,545	8,455	切手
8) 消耗什器備品費	0	0	0	
9) 消耗品費	8,000	540	7,460	封筒
10) 印刷製本費	10,000	10,000	0	資料代
11) 光熱水料費	0	0	0	
12) 賃借料	120,000	120,000	0	事務所賃借料
13) 諸謝金	0	0	0	
14) 租税公課	0	0	0	
15) 雑費	5,000	600	4,400	NPO 登記履歴請求代
3 予備費	15,000	0	15,000	
1) 予備費	15,000	0	15,000	
経常支出合計	610,000	459,696	150,304	
経常支出差額	△ 156,900	30,518	△ 187,418	
III その他資金支出の部				
1 固定資産取得支出	0	0	0	
1) 水源の森土地取得費	0	0	0	
2 借入金返済支出	0	0	0	
1) 借入金返済支出	0	0	0	
その他資金支出の合計	0	0	0	
当期収支差額	△ 156,900	30,518	△ 187,418	
前期繰越収支差額	935,483	935,483	0	
次期繰越収支差額	778,583	966,001	△ 187,418	

気軽に、楽しく 山仕事に参加しませんか

とき： 毎月第2土曜日およびそれに続く日曜日

集合場所： 御嵩町・中公民館（名鉄広見線・御嵩口下車、すぐ）

集合時間： 午前10時

参加の方法：電話、ファックス、電子メールなどで申し込んで下さい。

参加申し込み・問い合わせ先：TEL,FAX: 052-735-5453(市村)

E-mail : mitake500npo@yahoo.co.jp

服装：長袖、長ズボン、作業の出来る履き物

持ち物：軍手、弁当、水筒

表紙の絵は早川しょう子さん作



発行

特定非営利活動法人 みたけ・500万人の木曾川水トラスト
〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬2-28-14 名古屋働く人の家気付

TEL&FAX 052-682-4737

郵便振替00840-5-137369（←2018年5月より）

URL <http://mitake500npo.na.coocan.jp/>

e-mail mitake500npo@yahoo.co.jp